

うたごよみ

曾於文藝

俳句

末吉俳句会

存分に遊ぶ花冷まとふまで

川崎 多恵子

遠く来て桜の風に心解く

瀬戸内 紀子

白き胸返す一瞬初つばめ

藤武 良子

大隅俳句会

窓開けてたしかめて聞く初蛙

河南 ミホ

漆黒の夜空に咲けり白木蓮

岩重みどり

石庭に老や二人の春炬燵

川崎 綾子



短歌

大隅短歌会

ねずみ等が見えかくれてタぐれを
牛小屋のなかを横切りてゆく

安藤 フチ子

がっしりとワイヤー巻きて大樹伐る
ひねくれ者の沐田のじいさん

川辺 敦子

炊きたての赤飯もらう垣根ごしに
年の始めのあいさつ交わす

竹内 娃子

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳 氏

財部短歌会

米寿祝ひ愛知ですると言ふ子等により
行かざるまい腰重いけど

橋口 貞男

すぎゆけばこもさびしきとなりまち
シャッターストリート老婦一人バスをまつ

山城 忠

黄色なる柘の花岩躑躅のピンクは
屋敷を明るく為せり

瀬戸口 芳子

先に来し人のあるらし記帳簿に
綺麗な文字の住所と名前

川俣 若

音符みて歌ふカラオケ外れがち
ただ時すぎぬ八十路の手習ひ

井上 澄子

季節知る白木蓮は満開に
春の装ひわが家にもほんのり

児玉 次雄

真夜中のつぶやくやうな雨だれを
ひとり聞きをりふるさと恋ふる

杉村 リカ

原生林春二番に揺すられて
動めきはじむひな女まつり

祝迫 道雄

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

年金が 入れば楽しか

婆と買物 南川 句

婆が買物 爺あよいなこて

籠を持つ 古川 一幹

安売いの チラシが女房を
走らせつ 浜田 一好

爺が買物 焼酎と肴
他けなのし 田代 勝泉

大隅薩摩狂句会

大て欠伸 婆ん総入歯が
飛つ出せつ 津留 群志

出て欠伸 宿題ゆ早よ
せえ言母 太良木 五徳

釣れん奴が 海ぬ呑もそな
欠伸ぶしつ 神宮司 素水

農業機械 どぬり親方て
欠伸ぶしつ 新屋 涼子